

令和7年度鹿児島学力・学習状況調査結果について

令和8年3月24日
日置市教育委員会

1 調査の目的

(1) 趣旨・目的

学習指導要領において身に付けることが求められている知識及び技能や思考力、判断力、表現力等に関する学力の状況を把握するとともに、児童生徒の学習に関する意識などの学習状況、学校の取組状況を把握する。

また、CBT※で実施することにより、一人一人の児童生徒が自らの学力や学習の状況を振り返ることで、自らの学びに生かすとともに、児童生徒の情報活用能力の育成につなげる。

各学校では詳細な分析を個別最適な学びに活用するなど、指導法改善を図り、児童生徒の確かな学力の定着や向上を推進する。

※ CBT…(Computer Based Testing) コンピュータ(学習用タブレット端末)を用いた調査

(2) 調査の状況等

校種・学年	学力調査実施日	市実施校数	市実施人数
小学校第5学年	令和8年1月13・14日	全校(15校)	382人
中学校第1学年	令和8年1月15・16日	全校(6校)	368人
中学校第2学年	令和8年1月20・21日	全校(6校)	367人

※ 中学校は、日吉学園(義務教育学校)第7・8学年を含む(以下同じ)

2 学力調査の状況等(上段:平均正答数/設問数, 中段:市平均通過率, 下段:県平均通過率)

(1) 全体正答数・通過率等

	国語	社会	算数・数学	理科	英語
小5	10.5 /20問	11.2 /20問	6.8 /16問	13.5 /23問	
	52.5 %	55.9 %	42.7 %	58.8 %	
	51.7 %	55.4 %	43.0 %	58.7 %	
中1	15.5 /25問	11.8 /23問	7.9 /16問	12.9 /24問	11.3 /18問
	61.9 %	51.2 %	49.1 %	53.9 %	62.6 %
	59.4 %	49.7 %	47.5 %	50.1 %	60.5 %
中2	14.0 /26問	13.7 /24問	6.6 /18問	11.6 /24問	8.5 /18問
	53.8 %	56.9 %	36.5 %	48.4 %	46.9 %
	52.0 %	55.3 %	36.9 %	48.2 %	44.8 %

(2) 各学年・教科の詳細

国語	学年	小5	中1	中2
	知識・技能	5.1 / 7 問 (73.2 %)	6.1 / 9 問 (67.7 %)	6.3 / 11 問 (57.3 %)
学年別 平均 正答率	思考・判断・表現 (話す・聞く)	0.9 / 4 問 (22.3 %)	2.0 / 4 問 (51.9 %)	1.7 / 3 問 (59.9 %)
	思考・判断 ・表現(書く)	1.5 / 3 問 (50.3 %)	1.9 / 3 問 (63.4 %)	1.7 / 4 問 (44.0 %)
	思考・判断 ・表現(読む)	3.0 / 6 問 (49.7 %)	5.4 / 9 問 (60.0 %)	4.1 / 8 問 (51.4 %)
	全体	10.5 / 20 問 (52.5 %)	15.4 / 25 問 (61.9 %)	13.9 / 26 問 (53.8 %)

社会 平均 正答率	学年	小 5	中 1	中 2
	知識・技能	5.0 / 9 問 (55.7 %)	6.6 / 13 問 (50.9 %)	7.5 / 14 問 (54.0 %)
	思考・判断 ・表現	6.1 / 11 問 (56.1 %)	5.1 / 10 問 (51.6 %)	6.1 / 10 問 (61.0 %)
	全 体	11.1 / 20 問 (55.9 %)	11.7 / 23 問 (51.2 %)	13.6 / 24 問 (56.9 %)

算数・ 数学 平均 正答率	学年	小 5	中 1	中 2
	知識・技能	3.3 / 8 問 (41.8 %)	5.0 / 8 問 (63.4 %)	4.3 / 9 問 (48.3 %)
	思考・判断 ・表現	3.5 / 8 問 (43.6 %)	2.8 / 8 問 (34.8 %)	2.2 / 9 問 (24.6 %)
	全 体	6.8 / 16 問 (42.7 %)	7.8 / 16 問 (49.1 %)	6.5 / 18 問 (36.5 %)

理 科 平均 正答率	学年	小 5	中 1	中 2
	知識・技能	6.8 / 12 問 (57.2 %)	9.9 / 18 問 (55.3 %)	7.8 / 17 問 (46.4 %)
	思考・判断 ・表現	6.6 / 11 問 (60.6 %)	2.9 / 6 問 (49.7 %)	3.7 / 7 問 (53.1 %)
	全 体	13.3 / 23 問 (58.8 %)	12.9 / 24 問 (53.9 %)	11.6 / 24 問 (48.4 %)

英 語 平均 正答率	学年	小 5	中 1	中 2
	知識・技能		6.1 / 10 問 (61.3 %)	3.8 / 9 問 (42.4 %)
	思考・判断 ・表現		5.1 / 8 問 (64.2 %)	4.6 / 9 問 (51.4 %)
	全 体		11.1 / 18 問 (62.6 %)	8.4 / 18 問 (46.9 %)

○ 観点別の平均正答率を見ると、小学校第5学年国語の「知識・技能」が73.2%と高く、中学校第1学年数学の「思考・判断・表現」が34.8%、中学校第2学年数学の「思考・判断・表現」が24.6%と課題がある。

○ 領域別の平均正答率を見ると、小学校第5学年国語の「言語事項」が73.2%、中学校第1学年英語の「聞くこと」が84.1%、「話すこと」が88.6%と高く、小学校第5学年国語の「話すこと・聞くこと」が22.3%、小学校第5学年算数の「変化と関係」が28.8%、中学校第1学年社会の「日本の地域構成」が29.6%、中学校第2学年数学の「関数」が26.3%、「データの活用」が28.4%、中学校第2学年英語の「書くこと」が24.9%と課題がある。

3 児童生徒質問調査の状況等(抜粋)

質問の概要	小5	中1	中2
学校に行くのは楽しいと思いますか。	88.5 %	88.2 %	91.2 %
課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。	88.2 %	85.8 %	84.1 %
周りの人の考えを大切にしながら課題の解決に取り組んでいますか。	94.4 %	94.8 %	94.9 %
次の学習や実生活に結び付けて考えたり生かしたりできていますか。	89.6 %	87.1 %	83.6 %
自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ場面があったと思いますか。	81.5 %	77.8 %	75.9 %
話し合う活動で、考えを深めたり新たな考え方に気付いたりできていますか。	90.7 %	94.2 %	94.3 %
自分には、よいところがあると思いますか。	82.1 %	79.2 %	79.3 %
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。	90.1 %	89.1 %	91.5 %
自分でやると決めたことは、やりとげるようにしていますか。	89.0 %	90.1 %	91.5 %
難しいことでも、失敗をおそれないでちょうせんしていますか。	79.7 %	78.6 %	75.4 %
分からないことや詳しく知りたいことがあったとき、自分で学び方を考え、工夫することができていますか。	80.8 %	83.9 %	84.4 %
家庭学習では自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、計画を立てて活動していますか。	75.2 %	70.6 %	64.0 %

※ 数値は、「よく分かる」「当てはまる」と肯定的に回答した割合

- 主体的な学びに関する「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」の質問については、どの学年も「当てはまる」が約35%、「どちらかといえば当てはまる」が約50%と肯定的な結果となっている。
- 対話的な学びに関する「周りの人の考えを大切にしながら課題の解決に取り組んでいますか。」の質問については、「当てはまる」が約55～60%、「どちらかといえば当てはまる」が35～40%と、どの学年も肯定的評価が高く、95%近くとなっている。
- 粘り強く学ぶ意欲に関する質問の中で、「自分でやると決めたことは、やりとげるようにしていますか。」「分からないことや詳しく知りたいことがあったとき、自分で学び方を考え、工夫することができていますか。」については、学年が上がるにつれて肯定的評価が高くなっている。
- 主体的な学びや対話的な学び、「次の学習や実生活に結び付けて考えたり生かしたりできていますか。」等の深い学びに関する質問で、「当てはまる」と回答した児童生徒の正答率は最も高く、どの学年も肯定的に捉えている児童生徒ほど正答率が高い傾向となっている。

4 今後の課題(特に課題が見られた設問及び本市正答率、指導改善のポイント)

〔国語〕

小5	<p>【大問5(4)】話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるか。 本市正答率 5.8%</p> <p>話す・聞く・書く活動と文の仕組みの理解を結び付け、考えを言葉で整理し、正確に表現する力の育成を図る授業に取り組むことが重要。</p> <p>① 文の仕組みを意味理解と表現に結び付けた指導・・・修飾語と被修飾語の関係などを、文の意味や表したい内容と関連付けて捉えさせ、正確で分かりやすい表現につながるよう指導する。</p> <p>② 比較を通して考えを整理する活動の充実・・・話し手の考えと自分の考えを比べ、共通点や相違点を整理してから書く活動を位置付け、考えを言葉で整理する時間を確保する。</p> <p>③ 話す・聞く活動を生かした記述への接続・・・話し合いで出た考えや理由を基に、条件を意識して書き表す活動を取り入れ、話す・聞く活動と書く活動を一体的に指導する。</p>
	<p>【大問1(2)】自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して話の構成を考慮することができるか。 本市正答率 40.0%</p> <p>「相手に伝わるように話す」という目的意識をもち、構成を考えて論理的に話を組み立てる力の育成や、接続する語句や話の展開を示す表現等の知識・技能の理解を図る指導が必要。</p> <p>① 構成を考えてから話す学習活動への転換・・・話す前に、話の中心や根拠となる事実、補足する内容を整理する時間を意図的に確保し、構成を考えることを前提とした話す活動へと転換していく。</p> <p>② 「伝える相手」を明確にした目的意識の育成・・・話す活動では、「誰に、何を、どのように伝えるのか」を明確にすることで、構成を工夫する必要性が生まれる。聞き手を想定した話題設定や条件提示を工夫し、相手意識を伴った話の構成力を育成していく。</p>
中2	<p>【大問1(4)】「考えの形成」の過程において、根拠を明確にししながら、自分の考えが伝わるように、文章を工夫することができるか。 本市正答率 24.8%</p> <p>「自分の考えはどの根拠によって支えられているか」を振り返ったり、友達の文章と比べることで、考えの形成の仕方の違いに気付き、自分の考えがより伝わるように表現へと改善する活動を位置付けたりすることが重要。時には、学校生活や他教科において、「話すこと・聞くこと」や「書くこと」の指導事項を意識して学習活動を展開することも必要である。</p>

〔社会〕

小5	<p>【大問2(2)】日本の気候の特色をまとめた資料について考察し、判断しているか。 本市正答率 8.6%</p> <p>「冬の日本海側の地域では、降雪量が多い」ことを説明する際に必要な情報(大陸からしめった風が吹くなど)を関連付けて表現する力が十分ではないと考えられる。</p> <p>○ 「なぜ、冬の日本海側の地域は降水量が多いのだろう」や「季節風は日本の気候にどのような影響を与えているのだろう」などの問いを設けて、調べた事実を基に考察する学習活動の充実を図る。</p> <p>○ 日本の気候の特色について、代表的な都市の雨温図や日本列島の周辺地図、列島断面の模式図等の資料を活用して説明する学習活動や白地図等にまとめる作業的な学習活動を丁寧に行う。</p>
	<p>【大問4(1)】旧石器時代から古墳時代までの人々の生活や社会の様子について理解しているか。 本市正答率 35.0%</p> <p>各時代(縄文時代、弥生時代、古墳時代)の特色について、人々の生活や社会の様子等の観点から捉えることができていない。特に、日本列島における農耕の広まりと生活の変化について、時代を象徴する資料(遺物)と結び付けた理解が十分ではないと考えられる。</p> <p>○ 「本格的な稲作の広まりによって社会はどのように変化したのだろうか」などの問いを設け、時代の大きな流れに着目しながら、人々の生活や社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する学習活動の充実を図る。</p> <p>○ 時代の特色を捉えるための中心的な資料として、象徴的な遺物等を取り上げ、単元全体を通して取り扱う。</p>
中2	<p>【大問6(1)】江戸時代の文化の特色や栄えた時期について理解しているか。 本市正答率 28.2%</p> <p>政治の特色や社会の様子、文化の特色などを関連付けて、時代の特色を理解することができていない。江戸時代に栄えた文化の名称、特色は知っていても、栄えた時期や時代背景と結び付けた理解が十分ではないと考えられる。</p> <p>○ 各時代の特色を大きく捉え、政治の展開、産業の発達、社会の様子、文化の特色など他の時代との共通点や相違点に着目して、学習した内容を比較したり関連付けたりするなどして、その結果を言葉や図などで表したり、互いに説明したりする学習活動を充実させる。</p> <p>○ 各時代の転換点に着目し、歴史的事象(結果)が生じた原因をまとめたり、説明したりする学習活動を充実させる。指導に当たり、年表を活用し、いつ頃の出来事であるかを適宜確認する意識をもたせることが重要。</p>

〔算数・数学〕

小5	<p>【大問7(2)】割合の意味について理解し、数量の関係を基に、割合を表す図に当てはまる言葉や数を適切に選ぶことができるか。 本市正答率 28.3%</p> <p>「もとにする量」と「比べられる量」との関係を十分に理解できておらず、数量の関係を図と関連付けて捉えることに課題がある。また、割合を求める際に、「もとにする量」を1と捉えることの理解が十分でなく、基準とする数量を適切に判断することに課題がみられる。</p> <p>○ 割合の学習においては、「もとにする量」と「比べられる量」との関係を図や式と関連付けながら整理する活動を充実させ、割合を数量の関係として捉えられるようにすることが大切である。また、具体的な場面を基に、割合が何を表しているのかを実感的に理解できるように指導の充実を図ることが求められる。</p> <p>○ 計算結果だけを求める学習にとどまらず、「何をもとにして比べているのか」や「どの数量を1とみているのか」を言葉や図を用いて説明する活動を取り入れ、「もとにする量」と「比べられる量」との関係に着目して割合の意味を理解できるようにすることが大切である。</p>
中1	<p>【大問2(2)】テープをのりしろでつなぐ場面において、枚数と全体の長さの関係を整理し、与えられた6枚をつないだ場合の式の意味を読み取った上でそれを一般化し、全体の長さが163cmであるという条件を基に一次方程式を立て、条件に合う値を求めることができるか。 本市正答率 14.3%</p> <p>のりしろ部分の重なりに着目できず、6枚の場合の式が表す数量の構造を十分に理解できていないため、枚数と全体の長さの関係を一般化すること、また、全体の長さが163cmであるという条件を数量関係と関連付けて等式に表すことができず、数量の関係を方程式に帰着させること、さらに、x が表す数量の意味を十分に理解できておらず、立式した方程式を解いて求めるべき数量を的確に捉えることに課題がある。</p> <p>○ テープをつなぐ場面など具体的な事象を基に、のりしろの重なりに着目して数量の構造を整理する活動を充実させ、図や言葉を用いて数量の関係を表現し、どの数量が何とどのように関係しているのかを考えさせることで、事象の中から数量関係を見だし、数学的に捉えられるようにする。</p> <p>○ 全体の長さが163cmであるという条件を数量関係と関連付け、「何と何が等しいのか」を問い返ししながら等式に表す活動を位置付け、事象を数学的に表現し、数量の関係を一次方程式として捉える学習を充実させることが必要。その際、立式の過程を共有し、複数の考えを比較・検討する場面を設定することで、等式が表す数量関係について考察するようにする。</p> <p>○ x が表す数量の意味や求める数量を明確にさせるとともに、求めた解が事象の中でどのような値を表しているのかを振り返る活動を取り入れ、解を吟味する習慣を付けるとともに、解決の過程を式・図・言葉を関連付けて説明する活動を設定し、数学的に表現できるようにすることが大切。</p>
中2	<p>【大問5(1)】図形の性質や要件について理解し、それらを根拠として証明の筋道を捉え、適切な式や言葉を選び、証明を完成することができるか。 本市正答率 27.2%</p> <p>合同条件については半数程度の生徒が正しく選択できている一方で、証明の過程において対応する線分の関係を適切に選択することができていない解答が多くみられることから、合同条件を証明の流れの中で意味付けて理解することや、証明の文脈に応じて根拠を適切に用いることに課題がみられる。</p> <p>○ 図形の性質を単に知識として理解するだけでなく、どの条件からどの性質が導き出されるのかを図と対応させながら整理する活動を充実させ、条件と図形の関係を視覚的に捉え、根拠を明確にしながら説明する経験を積み重ねることによって、図形の性質を証明の中で適切に用いることができるようにすることが大切。</p> <p>○ 証明の学習においては、仮定と結論を明確にし、結論を導くために与えられた条件をどのように用いるかを考える活動を取り入れ、条件と結論の関係を意識しながら証明の筋道を捉えられるようにすることが重要。その際、図形の性質を理解していても証明の流れの中で根拠として適切に用いることが難しい場合がみられることも踏まえ、証明全体の構成も意識できるように指導することが求められる。</p> <p>○ 穴埋め形式の証明だけでなく、根拠を選択した理由を説明したり、複数の証明を比較・検討したりする場面を計画的に設定し、証明の過程を振り返り、どの根拠がどの段階で用いられているのかを確認する活動を通して、証明の文脈に応じて根拠を適切に用いて、筋道立てて説明する学習を充実させることが大切。</p>

[理科]

小5	<p>【大問7(1)】小学4年「水のすがたど温度」について、水を沸騰させたときに出てくる泡と湯気の状態を理解しているか。 本市正答率 11.5%</p> <p>誤答した児童は、「湯気は水蒸気」という素朴概念が強く、「水は熱されて目に見えない水蒸気になったり、冷やされて目に見える湯気に戻ったりする」ことを正しい知識として定着できていない。</p> <p>○ 指導に当たっては、水を加熱して沸騰する様子を観察した後、「温められて沸騰した水は気体となり、水蒸気として空気中に出た」、「周りの空気に冷やされた水蒸気は液体となり、白く見える湯気になった」等、水の状態を温度の変化に着目して自らの言葉で説明する活動を設定する。</p> <p>○ 知識・技能の定着を図るためには、単元指導計画において、補充的な学習を適宜位置付ける「分散学習」や、単元導入時にこれまでの既習事項を積極的に復習することで、記憶の定着と新たな状況での応用につなげる「検索練習」等、学習者の自己調整を意識して指導する。</p>
	<p>【大問3(1)】小学6年「月の形と太陽」において、月の見え方や方角、太陽がある方角を理解しているか。 本市正答率 39.8%</p> <p>誤答した生徒は、「月が光って見える側に太陽があること」や「月の形が日によって変わって見えるのは、太陽と月の位置関係が毎日少しずつ変わっていくことに伴って、太陽の光が当たって明るく見える部分も少しずつ変わるため」ということを理解できていない。</p> <p>中学3年における「月の満ち欠け」の指導に当たっては、事象提示で「月の観測結果」を動画等で提示することで、「月が満ち欠けを繰り返すのはなぜだろうか」と問題意識をもたせた上で、太陽や月のモデルを使って再現して確かめていく展開が効果的である。各領域・単元の特性に応じて、事象提示の場面で初発の思考や行動を喚起させる展開になるように心掛ける。</p>
中2	<p>【大問2(2)】中学2年「消化のしくみ」において、だ液が働く条件を理解できているか。 本市正答率 37.9%</p> <p>誤答である「1:デンプンのりやだ液が、他の物質に変化することを確かめるため」と解答している生徒が4割程度みられた。「1つだけ要素が異なる条件どうしを比較する」の考えのもと、だ液の有無以外の条件を同じにした対照実験を行い、それぞれの結果を比較することを理解できていない。</p> <p>仮説・実験企画の場面では、考察の妥当性を高めるために、計画・企画した観察・実験の結果から何が分かればよいのか、探究の見通しを確実にもたせることが大切である。</p>

[英語]

中1	<p>【大問10(2)】対話の流れや文法事項などを理解して、適切な語を補って表現できるか。 本市正答率 6.5%</p> <p>文の意味を理解できておらず、対話の流れをつかむことができていない。また、疑問詞を伴う疑問文に対する慣れ親しみが不足している。さらに、音声で思いついた表現を、正確に書くことができていない。</p> <p>○ 音声による英語のやり取りを充実させる言語活動や言語活動を支える活動を確実に行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語による授業を意識し、一単位時間内における全体の英語使用量をしっかり確保する。 教師による英語の発話の割合だけでなく、生徒による英語の発話の割合を意識して増やす。 生徒が主体となるよう意図した interaction (相互交流) を充実させる。 <p>△ T: How's the weather? S: It's sunny. T: What sport do you like? S: I like ○○. 発話量が増えても、教師の質問から interaction が始まると、生徒は疑問詞を使わない。</p> <p>◎ S: How do you spell ○○ in English? T: It's ○○.</p> <p>疑問に思ったことを英語で聞く習慣を付けさせ、生徒から質問が始まる interaction を仕掛ける。</p> <p>○ 音声による言語活動等の充実を踏まえた「書くこと」の指導を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 音声によるパターン・プラクティス等で扱った英語について1文程度書かせる。 音声による interaction 等の後、自分の思いや気持ち等を1文程度書かせる。
	<p>【大問15】自分の考えなどを整理し、まとまりのある英文を書くことができるか。 本市正答率 15.5%</p> <p>書く内容について、自分なりの発想をもつことができていない。また、発想した内容を適切な(簡素な)英語にできていない。さらに、正確に英語で書くことができていない。</p> <p>○ まずは十分な音声でのやり取りで、表現の定着を図る。(「書ける」前に「言える」ようにする)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の導入時に、簡単で即興的なやり取りをする帯学習を設定する。 Teacher Talk 等で English Rich な授業を展開する。 <p>○ 音声から文字へのスムーズな移行を意識する。(「言える」ものからどんどん書かせる)</p> <p>○ 少量から「書かせる指導」を充実させる。(生徒の「書きたい」気持ちを喚起して書かせる)</p> <p>○ 語彙や基本文などの言語材料は、場面や文脈の中で上手に出会わせ、意味やスペリングだけではなく働きや機能も理解(感じ)させ、それらを「使う」言語活動を通して習得させる。</p> <p>○ まとまりのある英文を書かせる場合は、例文を示さずにまずは使わせてみることから始めてみる。 (「Trial and Error」)</p> <p>○ 既習の表現等を何度も使わせる場を設定し、エラーについては、教師からのフィードバックを工夫し、生徒自身の気付きが増えることで正確性が上がるよう指導する。</p>